



重点改革項目3 中山～日吉間総建設費目標 2,500 億円

《基本的な考え方》

創意工夫のコスト改革、めざせ開業平成 19 年 3,000 億円から 2,500 億円へ

〈個別取組：4 項目〉

《取組状況と今後の方向性》

横浜環状鉄道（中山～日吉間：4 号線）については、平成 9 年 5 月に鉄道事業免許を取得、平成 13 年 1 月に工事着手し、地元の皆様のご理解とご協力をいただきながら、平成 19 年開業を目標に事業を推進しています。

平成 16 年 3 月末現在、事業に必要な用地のうち 97%が取得済みで、土木工事は全 24 工区の発注を終え、うち 5 工区が完成しています。

総建設費については、計画段階から、リニアモータ推進方式の採用により、トンネル断面を小さく、また、急勾配での走行が可能な特長を生かし、利便性の高い浅い駅を実現するとともに、環境に配慮しつつ経済的な地上構造の採用などにより建設費の低減を図り、免許時点で 3,002 億円と見込んでいました。

その後も、建設費縮減に向けて、土木工事においては、シールドトンネルの新型セグメントの導入やシールド機 1 台による往復掘進の採用、建設発生土の埋戻しへの利用、車両基地と県遊水地との立体整備、VE 制度の活用などの方策を実施しています。

また、設備工事においては、駅施設規模の見直し、駅仕上げの簡素化、汎用品の採用、さらに、初期の車両編成数を 4 両にするなど需要に見合った段階的整備などに取り組んでいます。

この間、地価・物価の下落もありましたが、計画、設計、工事のあらゆる段階で積極的に建設費の縮減に取り組んだことにより、現時点では、総建設費を 2,580 億円まで縮減できる見通しとなっています。

今後も、設備関係の一層の見直し、PPP の導入、発注方法の見直しなどを行い、総建設費 2,500 億円を目標として、積極的に建設費縮減に取り組んでまいります。



◆具体的取組◆

中山～日吉間総建設費目標2,500億円

取組項目	内容	スケジュール					目標
		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
総建設費2,500億円を目指す	土木工事費、設備工事費、間接費の費目ごとに詳細な検討をすすめる、総建設費2,500億円を目標に一層のコスト縮減に取り組む						総建設費の抑制による地下鉄事業の長期的経営の健全化
1 土木工事関連	新技術の導入や設計の見直し等	実施	推進	→→→	開業		土木工事費の削減
2 建築等工事関連	駅施設等の仕様見直し	実施	推進	→→→	開業		停車場費等の削減
3 車両関連	1編成の車両数を6両から4両に見直し等	推進	→→→	→→→	開業		車両費の削減
4 平成19年開業	総合的な工事工程の精査・調整をすすめるながら、工事を推進する	推進	→→→	→→→	開業	営業	早期開業による投下資本の早期回収

※ 中山～日吉間のコスト縮減にあたっては、「重点改革項目1 コスト削減30%」での具体的取組のうち、「契約方法・積算方法の見直しによる調達コスト・工事費の削減」についても取り組みます。

平面図



縦断面図

